

熊本城復旧基本方針<概要>

I はじめに

1 被害の状況等

- ・重要文化財建造物13棟全て、再建・復元建造物20棟全て、便益施設26棟
石垣約23,600㎡(全体の約3割)、地割れ約12,345㎡
- ・被害額約634億円 ※旧細川刑部邸別途約5億円、現時点での概算値

2 基本方針及び基本計画の策定

(1)基本方針の策定

復旧に向けた基本的な考え方や具体的に取り組むべき施策の方向性を定め、市民・県民・行政・関係機関等の共有のもと、熊本城復旧に一体的に継続して取り組むために策定

(2)基本計画の策定

基本方針に基づき、熊本城全体の復旧の手順や工法及び復旧過程の公開など具体的に取り組む施策を体系的に定め、熊本城の効率的・計画的な復旧と戦略的な公開・活用を着実に進めていくために策定(平成29年度までに策定)

<①計画期間>

概ね20年とし、主要施策を短期施策(概ね5年)・中期施策(概ね20年)として整理

<②計画区域>

特別史跡区域(51.2ha)及び都市計画公園区域(56.3ha)

<③計画の位置づけ>

「熊本市震災復興計画」を最上位計画、「特別史跡熊本城跡保存活用計画」を上位計画とし、本市の観光・中心市街地活性化等の関連諸計画等と連携

II 基本的な考え方(※平成28年7月26日公表済)

熊本城は、我が国有数の文化財であるとともに、国内外から年間170万人の観光客等が訪れる熊本のシンボルであり、本市のまちづくりに係る主要施策の展開、震災復興に欠かすことのできない中核を成すもの

市民・県民をはじめ多くの皆様の力を結集し、以下の5つの基本的な考え方に基づき100年先を見据えた復元整備への礎づくりとしての熊本城復旧に取り組む

- (1) 復興のシンボルである天守閣の早期復旧を目指す
- (2) 文化財的価値を損なわない丁寧な復旧を進める
- (3) 復旧過程の段階的公開を行い、観光資源としての早期再生を図る
- (4) 耐震化など安全対策に向けて最新技術も取り入れた復旧手法の検討を行う
- (5) “100年先の礎づくり”として未来の復元整備へ繋がる復旧を目指す

III 基本方針

● 基本方針1 被災した石垣・建造物等の保全

<主要施策>

- ① 崩落・倒壊した石垣・建造物等部材の回収・適切な保全
- ② 崩落・倒壊等の危険性の高い石垣・建造物等への緊急的防止措置
- ③ 被害実態の詳細把握及び復旧手法等への反映

● 基本方針2 復興のシンボル「天守閣」の早期復旧

<主要施策>

- ① 市民・県民の復興のシンボル「天守閣」の2019年を見据えた早期復旧
- ② 耐震化等による天守閣の安全性の向上
- ③ 天守閣のバリアフリー化及び内装・展示内容の刷新

● 基本方針3 石垣・建造物等の文化財的価値保全と計画的復旧

<主要施策>

- ① 石垣の復旧方針検討及び計画的復旧
- ② 宇土櫓など重要文化財建造物の計画的復旧
- ③ 工区や復旧過程の公開等を踏まえた石垣・建造物等の段階的復旧
- ④ 伝統技法等による丁寧な復旧及び効率的手法の検討

● 基本方針4 復旧過程の段階的公開と活用

<主要施策>

- ① 天守閣エリアの早期公開と本丸御殿大広間等の復旧
- ② 竹の丸エリアの公開と長堀及び飯田丸五階櫓等の復旧
- ③ 公開エリアの順次拡大と復旧過程の観光及び教育等資源としての活用
- ④ 都市公園施設としての復旧・調和

● 基本方針5 最新技術も活用した安全対策の検討

<主要施策>

- ① 文化財的価値の保全を踏まえた石垣・建造物等の耐震化等の検討
- ② 耐震化等安全対策に係る最新技術・現代工法の検討
- ③ 将来の災害に備えた熊本城全体の安全・防災対策等の検討

● 基本方針6 100年先を見据えた復元への礎づくり

<主要施策>

- ① 熊本城調査研究の更なる推進
- ② 将来にわたる継続的な復旧を支える人づくり
- ③ 震災の記憶継承と幕末期など往時の姿への復元検討

● 基本方針7 基本計画の策定・推進

<主要施策>

- ① 関係行政機関・専門家・市民等の意見を踏まえた基本計画の策定
- ② 国県等の関係機関一体となった復旧の推進
- ③ 城主制度や瓦の活用等による継続的な市民等の参画による復旧